



ほけんだより 7月



蒸し暑い毎日ですね。体力を奪われるこの気候、ここに重なるように体調不良者が続出中です。

手足口病、ヘルパンギーナをはじめ、発熱、咳、胃腸炎症状、診断がつかない発疹など、様々な症状があらわれています。近隣の小児科が現在どこも混んでいるとの情報を入手しました。これらが保育園だけで起きているのではなく、地域が同じ状況にあることを表しています。

これまでかかってこなかった風邪や感染症にかかることは、子どもたちにとっては大事なことでもあります。いろいろな感染症にかかりながら身体は強くなっていくためです。大切なのは、体調を崩した時にどう対応をするかです。新型コロナによる厳しかったと感じる規制、ゆるくなってラッキーではありません。しっかり休養をとり、元気になってから登園ができるとうれいですね。

元気な身体で暑い夏を乗り越えよう！



毎日同じリズムで生活できると、身体への負担が少なく、日中の疲れの回復もとても早いです。

「食う・寝る・遊ぶ・出す」が一つでも崩れてしまうと、体調不良を起こしやすい状態となってしまいます。子どもが自ら率先して取り組むにはまだまだ難しく、大人の管理が必要です。

暑さを乗り越え、楽しく過ごせる夏となるよう、一緒に取り組んでいきましょう。

すりきずの対応

元気に活動している子どもたち、転んで擦り傷を作ってしまうこともあります。保育園での擦り傷の対応は、流水でしっかり汚れを落としたあとに、ワセリンやカットバン等で傷を保護しています。

子どもたちには、「お風呂の時にカットバンを剥がして、傷をおうちの人にみてもらってね。」と伝えています。まれに、保育園で処置した時のカットバンが翌日も貼りっぱなしになっていることがあります。保育園で使用しているカットバンは、濡れてもOKなタイプではありません。傷を確認し、清潔に保つために、必ずカットバンを剥がして傷の確認をしてください。



熱中症対策 ~子どもまかせでは危険です~

夢中になると周りが見えなくなる、気にならなくなるのが子どもの特徴です。感じないわけないと思う暑さも、子どもにとっては楽しさの方が勝ってしまいます。子どもの熱中症対策は大人の気付き、声掛けがとても重要です。「喉が渴けば飲むでしょ」は、真夏には命取りとなります。こまめな観察や声掛けを皆で行っていきましょう。

